

阿賀野川 えとこだより

aganogawa E-toko dayori



ここにあるすべてを、
かけがえのない「宝もん」へ。

阿賀野川 千唐仁からの情景（阿賀野市千唐仁）撮影：山口冬人氏（JPS 日本写真家協会会員）

もくじ

- 特集1 「阿賀野川エコミュージアム」
を目指す流域再生フォーラム」
- 第1部 新潟水俣病の経験に
向き合い、乗り越えるために
- 第2部 まぼろしの阿賀の逸品の数々を、
これからの阿賀野川ブランドに活かす
- 連載コラム
- 「阿賀の宝もん」から考える地球環境
- 特集2 平成23年度「ロバダン」レポート
インフォメーション

「阿賀野川エコミュージアム」を目指して

平成19年度から開始した「阿賀野川えとこだプロジェクト」(FM事業)は、「光と影」の視点に基づき、パネル巡回展や地域再発見講座、公害関連の環境学習プログラムづくりなど、新潟水俣病に向き合う地域再生の取組を進めてきました。そうした中、流域の方々からは、自らの暮らしとFM事業との接点が見えなくなってしまうのではないかと、意見も頂きます。実は、この率直な意見は非常に印象深く、地域再生のあり方を一歩前に進めるきっかけをFM事業に与えてくれました。

その結果、新潟水俣病に向き合う取組だけでは足りず、それを乗り越えた後、全国に向けて発信できる様々な取組が必要と考えました。そこで、それらを流域各地の方々と協働して築いていく新たな営みを、平成23年度半ばからFM事業と並行して開始しました。

今号では、「阿賀野川エコミュージアム」と名づけられた、この新たな流域再生の動きについても、今年3月に開催されたフォーラムのレポートと併せてお伝えします。

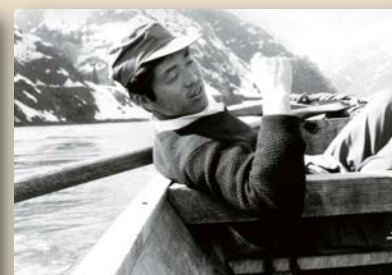
新潟水俣病に向き合い、
乗り越える流域づくりの始まり

映像
作品

阿賀野川と共に生きてきた船頭さん

～写真で綴る五十島地区・元船頭さんの半生～

日本の近代化と公害の発生が表裏一体となった阿賀野川流域の歴史。その一面を昔の写真で綴った映像作品が完成しました！



かつて、阿賀野川の上流には県営の渡船場があった。船頭は渡し舟を毎日のように漕ぎ、多くの人々を岸から岸へと運び続けた。しかし、新潟水俣病の発生と時代の流れに翻弄された男性の人生…その光と影の記憶をどう未来へつなげるか。

〈ご覧になられた大学生の皆さんの感想〉

- 元・船頭さんの娘さんを思う気持ちに感動した。 ●泣きそうになりました。
- 今の時代を生きる人間としては、川と人との関わりが、ここまで大きかったとは思わなかった。昔の人の人生を視覚的に追体験する重要性がわかった。
- 元・船頭さんの半生を追うことで、他人からの差別や分かりづらい症状を気にするあまり、被害者だと周囲に言い出しにくくなる水俣病の怖さを学べた。



開催予告

今冬、阿賀野川下流域を題材にしたパネル巡回展を開催予定！

「阿賀野川えとこだプロジェクト」とは？

正式には「阿賀野川流域地域フィールドミュージアム事業」(通称FM事業)と言い、阿賀野川流域の各地域が今も続く新潟水俣病と向き合い、それを乗り越えるような「人と人の絆」や「人と自然の関係」を紡ぎ直すため、流域の住民・行政・民間団体が手を取り合い、「新しい地域づくり」を目指して始まったプロジェクトです。

阿賀野川えとこだ！憲章(事業理念)

私たちは新潟水俣病に学び教訓を伝承することで、負の遺産から新たな価値を創造していくことを目指します。阿賀野川流域の宝物を広く内外に発信しながら、公害により失われた人と人、人と自然、人と社会の絆をつむぎ直していきます。地域を愛する人が地域の未来をつくる「流域自治」の確立へ向けて行動します。

(阿賀野川流域地域フィールドミュージアム事業推進委員会)

編集後記

第7号はいかがでしたでしょうか？

今回、本誌で初めてお披露目できた「阿賀野川エコミュージアム」。これとFM事業…2つのプロジェクトが同時進行中なので、実は目も回るような忙しさなのです。しかし、おかげさまで、流域に眠る数多くの「宝もん」を掘り起こしつつ、その過程で様々な方々と親交を深めさせていただき、フォーラムの開催へとこぎつけることができました。ご協力いただいた関係者の皆さん、様々なイベントへ参加された皆さんには、心から感謝申し上げます！

次回、第8号は、いよいよ阿賀野川下流域を舞台としたパネル巡回展を特集します。ご期待ください！

阿賀野川えとこだより 第7号

発行：新潟県(※環境省補助事業) 発行日：2012年9月25日
企画編集：阿賀野川えとこだプロジェクト(事務局/〒959-2221 阿賀野市保田 3866-1)

TEL.&FAX.0250-68-5424
aganogawa@niigata.email.ne.jp

「阿賀野川えとこだ！ブログ」
<http://www.aganogawa.info/>

リニューアルまであと一歩…。





砂利運搬(昭和30年、旧水原・分田)撮影:村上孟氏/提供:村上直行氏



昭和電工株産瀬工場(出典:鹿瀬工場タイムス昭和29年新年号44号)



阿賀野川・最後の帆船(昭和25年、五泉・笹堀)撮影:木村清氏/提供:木村仁氏

特集1 阿賀野川エコミュージアム を目指す流域再生フォーラム

これまでの地域再生の取組「阿賀野川えとこだプロジェクト」(F M事業)に加え、平成23年度半ばから新たに始動した新プロジェクト「阿賀野川エコミュージアム」。この2つの流域再生プロジェクトの様々な事業成果を実際に体験して肌で感じ取っていただくため、平成23年度末にフォーラムを開催しました。

P2～P5カラー写真(※紙芝居写真除く)撮影:山口冬人氏(JPS日本写真家協会会員)

本フォーラムは、平成24年3月25日(日)、五泉市咲花温泉の「佐取館」咲花きかせ堤河床にて開催しました。当日は、雨模様の天気にも関わらず、流域にお住まいの大勢の方々からご参加いただきました。

なぜ2つの流域再生なのか？

本フォーラムの目的は、公害問題が今も続く流域の地域再生に理解を深めていただくことです。当日はいつもの座学だけではなく、これまでの様々な事業成果を参加者の皆さんから直に体験していただく趣向も加えました。

このようにすることで、普段は気づかない阿賀野川流域の潜在的な力や課題を肌で感じ取ってもらい、現在、2つの異なる流域再生を進めている意義に思いを馳せていただければ…と考えたからです。

今回の特集では、こうした観点から、当日のフォーラムの様子などをレポートします。

第1部

新潟水俣病の経験に向き合い、 乗り越えるために

紙芝居「新潟水俣病との出会い」



〈参加者の主な感想〉

- 風化していた水俣病を思い出した。子どもたちにも伝えていかねば。(60代・新潟)
- 視覚にも訴えてきて、最後まで興味を持てた。理解しやすかった。(50代・阿賀町)



「向き合う」だけでなく「乗り越える」

これまで、阿賀野川流域では、F M事業を通じて、新潟水俣病に向き合う様々な取組が展開されてきました。しかし、さらなる流域再生を目指すには、公害の経験乗り越える独自の環境取組や地域づくりを全国に向けて発信して、公害の負のイメージをプラスに転化させるような阿賀野川ブランドの確立が必要とされます。

「阿賀野川エコミュージアム」始動

こうした趣旨に基づき、平成23年度半ばから、F M事業とは別に、新潟県「新しい公共」モデル事業の一環として、新プロジェクト「阿賀野川エコミュージアム」がスタートしました。本プロジェクトにおいては、五泉市の咲花温泉観光協会・阿賀野市・阿賀町・日本自然環境専門学校・阿賀のがわ環境学舎が協議会を結成し、運営に当たっています。

2つの取組を軸に真の流域再生を

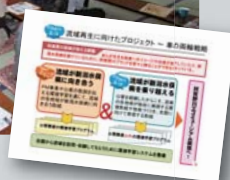
今後は、この2つのプロジェクトを車の両輪のように前進させることで、全国に堂々と誇れる阿賀野川ブランドを育めるような流域再生をさらに加速させます。

2つのプロジェクトを流域再生の両輪にして――

〈参加者の主な感想〉

- 地域の活性化にこの取組は不可欠。(70代・笹神)
- この取組を地域の活性化につなげて。(50代・新潟)
- タブーだった過去の出来事を公の場で話し合うことで多くのことが分かる。(50代)

2つの流域再生プロジェクト解説





次ページのコラムも必読！

薪ボイラーで沸かした足湯体験



上流域の森林資源を活用した足湯

森林資源の宝庫である阿賀野川上流域から調達した薪を燃料として、同じく流域の会社を取り扱う、高効率燃焼の薪ボイラーでお湯を沸かして、臨時の足湯を河床で体験してもらいました。

第2部

まぼろしの阿賀の逸品の数々を、
これからの阿賀野川ブランドに活かす

これまで阿賀野川エコミュージアムが発掘してきた阿賀の逸品の数々。フォーラム当日は、豊かさを引き換えに、私たちは何を忘れてきたのか、見つめ直しました。

「咲花きなせ堤河床」が会場

フォーラム第2部は屋外に出て、阿賀野川に面した「咲花きなせ堤河床」をメイン会場として、「蒸しかまど炊飯」と「薪ボイラーの足湯」を体験しました。

この河床は、これまで背を向けがちだった阿賀野川に再び向き合うための舞台として、平成23年7月の水害を乗り越えた咲花温泉が同年9月末に設置しました。咲花温泉では、阿賀野川ブランドが皆から認められるために、公害の発生も含め阿賀野川の歴史・文化に向き合うことを提案しています。

舞台は「咲花きなせ堤河床」へ



失われつつある郷土料理の稀少な価値を再発見

阿賀野川エコミュージアムを進めていくと、阿賀野川流域には、かつて光輝いたけど今は失われた郷土料理の数々が眠っていることが判明しました。

例えば、安田瓦の職人だったおばあちゃんからは、泥漬け（瓦の原料の粘土で漬けたナスの漬物）の漬け方を伝授していただき、阿賀町の農家民宿の方々からは失われつつある奥阿賀の郷土料理の数々を教えてもらいました。



粘土で漬けた泥漬け

昔懐かしい「蒸しかまど」炊飯体験

先人たちの知恵が
まった「蒸しかまど」

良質な粘土が豊富に採れる安田・六野瀬にある(有)小田製陶所では、昭和20～30年代まで、炭でご飯が炊ける「蒸しかまど」を製造していました。

これは、燃料が貴重だった近代以前に考案された(今で言う)省エネ製品に相当し、実は技術が発達した現代でも、最も美味しくお米を炊ける道具の一つとして知られています。当日は実際に河床で炊飯を実演し、炊き立てご飯の試食会も行われ、あまりの美味しさに驚きの声をあげる方もいました。



阿賀野川
エコ
ミュージアム

五泉産野菜
具だくさん
味噌汁

にしんの
糍漬ツテ

わっぱさみ

蒸しかまど
炊飯おにぎり



ミズナの油炒め

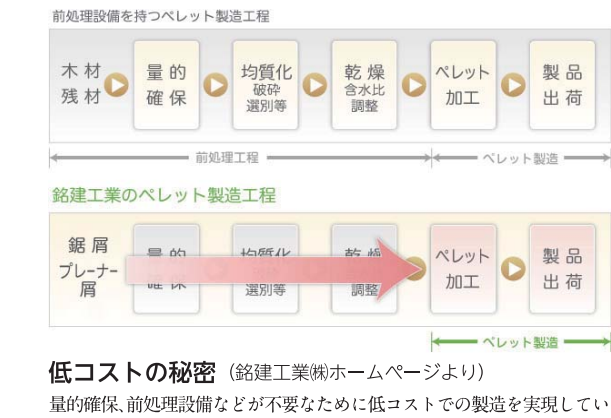
糸こんにゃく

泥漬け

黒米ちまき

流域の失われた恵みを蘇らせた「豪華な粗食」

※「豪華な粗食」は〔一社〕あがのがわ環境学舎が商標登録出願中の旅行商品オプションサービスです。



ギーとして自ら作り上げて、現在に至っています。

日本にもあるベレットの成功事例、ベレットのバイオニア「銘建工業㈱」

「銘建工業㈱」は岡山県真庭市にある金属材料製造のトップメーカーですが、ベレットの製造においても日本で一番のシェアを誇っており、韓国に輸出も行っています。銘建工業㈱が成功している要因は、左記のように集成材の製造工程から大量に発生する残材、鋸屑を原料としているため、低コストの製造が可能となっていることと、日本におけるベレット製造のおよそ50%のシェアを占めているスケールメリットにあります。日本において、このような好条件下でベレットを製造し、成功している数少ない事例と言えます。

日本では木質バイオマス燃料の利用拡大に課題山積！

そもそも、木材を燃料として使用するのには最も付加価値の低い使い方であるため、経済的に見合うにはできるだけコストを下げずに製造しなければなりません。ペレットは製造工程が複雑であり、オーストリアや銘建工業(株)の事例でわかるように、製材所の残材や鋸屑を原料とするのであれば経済的に見合うのは難しく、林業が衰退している日本においては、ペレット製造の推進はなかなか困難であると思われるます。チップは大規模需要者向けであり、初期設備投資が高額となります。薪は、保管場所に広いスペースが必要なことや、手作業により投入をしなければならない問題もありますが、最も大きい課題は、林地にある間伐材などを効率よく集材・流通するシステムが確立していないことです。

このように考えてくると、日本において経済的に見合うかたちで木質バイオマス燃料の利用を進めることは極めて困難であることに気付かれます。従って視点を変えて、この地域において身の丈にあったやり方で、小規模であっても持続する方法を模索するのが現実的であると考えます。近年、間伐材などの集材方法として、効率よりも地域のお年寄りの生きがいややりがいを活かして、地域づくりに繋げる方法が注目されています。いわば木質バイオマス燃料の「葉っぱビジネス」(※)と言えるかも知れません。阿賀野川流域においてこの方法を推進できれば、薪が木質バイオマス燃料として歩み始める可能性が見えてきます。

阿賀野川えとこだプロジェクト事務局

第2回 短期集中連載コラム 「阿賀の宝もん」から考える地球環境

「地域の独自性」を大切に生かさないと暮らせなかった昔とは違い、現代では豊かな生活の裏で、世界中の資源を使い続け、地球環境問題が深刻化しています。このコラムでは、流域地域も地球環境もどちらも持続可能なように、忘れられた「流域の独自性」＝「阿賀の宝もん」を再び生かせる道を探っていきます。

阿賀の宝もん☆発掘コラム

阿賀野川の歴史や文化、人や暮らし、自然環境…などを一歩深く探る各種コラムを毎号連載。

映画「阿賀に生きる」に登場した人々が体现する考え方や流域文化、報道などから伝わらない「それぞれの新潟水俣病」、「阿賀の宝もん」と地球環境問題をつなぐと見える流域の未来…など各種コラムを通して、新潟水俣病に向き合い乗り越える流域づくりのヒントを発掘していきます！

※連載コラム「映画『阿賀に生きる』とその周辺の人々(第3回)」、「それぞれの新潟水俣病(第3回)」は次号掲載します。

- | | | | | |
|-----------------|-----------------|--|-------------------|------------------|
| 1. 咲花温泉口バダン | 8. 流域木質口バダン |  阿賀野川
エコ
ミュージアム | で開催した
口バダン! 一覧 | |
| 2. ゆうきの里体験塾口バダン | 9. 中流地場産業口バダン | | | |
| 3. 東蒲原自然口バダン | 10. 農家民宿食体験口バダン | | | |
| 4. 河床活用口バダン | 11. 咲花環境口バダン | | | |
| 5. 雪椿活用口バダン | 12. 阿賀町農林口バダン | | | 15. 五泉巢本食口バダン |
| 6. 角神地域観光口バダン | 13. 窯業泥漬け口バダン | | | 16. 蒸しかまど口バダン |
| 7. たきがしら湿原口バダン | 14. 咲花女将瓦見学口バダン | | | 17. 中流域宝もん交流口バダン |

